

| | | | |
|-----------|--------------------------------------|------|-------------------------|
| 開講日 | 2023年春期 火曜日 18:30-20:00 | 講義場所 | 対面(医学部研究棟11階 講義室A)+録画配信 |
| コースディレクター | 名古屋市立大学大学院医学研究科 呼吸器・小児外科学分野 教授 奥田 勝裕 | | |

| | |
|----------------------------|--|
| 科目概要 および 期待される 成果 | <p>【概要】周術期医療は大きく進歩しており、日々知識を新しいものへと刷新していなければ最善の医療を患者さんに届けることができなくなってきています。よりよい周術期管理は「周術期管理チーム」として提供することができ、そのメンバーは、医師・看護師・薬剤師・臨床工学技士・理学療法士・歯科衛生士・メディカルソーシャルワーカー・管理栄養士と多岐にわたります。患者さんに最適な医療を届け、早期の社会復帰を可能にするためには、一人一人がチームとしての周術期管理を理解し、自主的に動くこと、問題点を解決して実現可能な最適なシステムを進化させていく必要があります。よりよい周術期医療を実現させるための知識を整理するとともに、最新の知識を提供していきたいと考えています。</p> <p>【期待される成果】周術期管理に関する基本的知識に加え、最新の情報や現在の問題点を提供することで、周術期管理について幅広く学べるようになります。実地臨床ですぐに使える知識が得られることを目指します。</p> |
| 目標とする 資格 | 医師・看護師・薬剤師・臨床工学技士・理学療法士・歯科衛生士・メディカルソーシャルワーカー・管理栄養士など。周術期管理チーム認定。 |

| サブカテゴリ | No | タイトル | 講義概要 | 開講日 | 講師(所属) |
|----------|----|-------------------------------------|--|-------|---|
| L-1 | 1 | 周術期管理・周術期管理チームとは | 「周術期管理」、「周術期管理チーム」と何か、広く普及してきている周術期管理チームにおける各職種の役割について学びます。 | 4月4日 | 教授 奥田勝裕 名古屋市立大学大学院医学研究科 呼吸器・小児外科学 |
| L-2 | 2 | 上部消化器疾患の周術期管理 | 最新の食道・胃手術に対する周術期管理について学びます。 | 4月11日 | 助教 田中達也 名古屋市立大学大学院医学研究科 消化器外科学 |
| L-3 | 3 | 最先端の大腸癌手術を学ぼう ～ロボット手術から人工肛門管理まで～ | daVinci手術や最近承認された手術ロボットhinotoriの話、大腸癌手術のポイントをまとめて紹介致します。 | 4月18日 | 助教 鈴木卓弥 名古屋市立大学大学院医学研究科 消化器外科学 |
| L-4 | 4 | 乳癌治療アップデート | 乳癌の治療は毎年のように変化しています。ここ数年での治療の変化について紹介します。 | 4月25日 | 准教授 鰐淵友美 名古屋市立大学大学院医学研究科 乳腺外科学 |
| L-5 | 5 | 小児外科の周術期管理 | 小児外科では15歳までの外科疾患を幅広く取り扱っています。多様性のある小児外科の周術期管理についてお話します。 | 5月9日 | 講師 高木大輔 名古屋市立大学大学院医学研究科 呼吸器・小児外科学 |
| L-6 | 6 | 脳神経外科領域の周術期管理について | 脳神経外科は、頭蓋・脳を扱う手術が多く患者の機能・生命予後に直結します。手術内容も、開頭術からカテーテル治療まで幅が広く、疾患によっても特殊な術後管理が必要となります。また、術後は患者本人から聴取が難しくなり、病態の変化を捉えづらく敬遠されやすい分野かと思えます。本講座では特に脳血管障害領域の手術・周術期管理を解説し、日常診療に役立てて頂く内容としています。 | 5月16日 | 助教 内田 充 名古屋市立大学大学院医学研究科 脳神経外科学 |
| L-7 | 7 | チームで創る周術期管理-麻酔についてもっと知ろう | 今や周術期管理は多職種が協同することが求められています。麻酔科医の視点で麻酔の基礎-術前・術中・術後管理のポイントを解説します。 | 5月23日 | 講師 上村友二 名古屋市立大学大学院医学研究科 麻酔科学・集中治療医学分野 |
| L-8 | 8 | 術後の集中治療管理 | 食道手術や心臓外科手術など侵襲の大きな手術の術後ICU管理や、ハイリスクもしくは全身状態が不安定な患者さんの術後ICU管理についてお話します。 | 5月30日 | 講師 田村哲也 名古屋市立大学大学院医学研究科 麻酔科学・集中治療医学分野 |
| L-9 | 9 | 周術期リハビリテーションについて | 周術期リハビリテーションは術前には予防的に、術後は早期に効果的な介入をして、円滑に回復に向かう手助けをします。そのためどのよう評価、マネージメント、訓練を進めていくかをお話します。 | 6月6日 | 理学療法士 桜井春香 名古屋市立大学病院 リハビリテーション技術科 |
| L-10 | 10 | 周術期ケアにおける薬剤師の役割 | 周術期に関わる薬剤について講義を行い、術後早期回復に向けた薬剤師の取り組みについて学びます。 | 6月13日 | 薬剤師 小林紀香 名古屋市立大学病院 周術期ケアセンター(薬剤部) |
| L-11 | 11 | 手術患者の入院から退院までの看護 | 手術を受ける患者さんの入院から退院までの関わり、看護についてお話します。 | 6月20日 | 病棟主任 永田剛大 名古屋市立大学病院 看護部 |
| L-12 | 12 | 手術看護認定看護師が教える周術期に活かせる麻酔の知識と看護 | 周術期看護は、手術が決定した時から始まります。手術室はもちろん、病棟でも活かせるような術前の患者評価や術後の疼痛管理などのポイント、周術期の看護の役割をお話します。 | 6月27日 | 看護師長・手術看護認定看護師 岡田悠揮 名古屋市立大学病院 中央手術部 看護部 |
| L-13 | 13 | 手術看護認定看護師が教える術中看護とモニタリングの知識 | 術中の看護(主に体位固定と体温管理)、手術室で培ったモニタリングの知識をお話します。術中の体位固定と体温管理は手術看護の見せ所と言っても過言ではありません。術中の患者の状態を知れば、術後の観察ポイントが見えてきます。 | 7月4日 | 看護師長・手術看護認定看護師 岡田悠揮 名古屋市立大学病院 中央手術部 看護部 |
| L-14 | 14 | 医療安全の視点から考える安全な周術期管理とは？ | 術前のインフォームドコンセントから始まり、術後管理に至るまで、安全確保についての当院の取り組みを概説するとともに、「医療安全とは？」についても一緒に考えてみたいと思います。 | 7月11日 | 教授 戸澤啓一 名古屋市立大学大学院医学研究科 医療安全管理学 |
| L-15&D-1 | 15 | 呼吸器外科手術の周術期管理と全体のまとめ | 呼吸器外科手術(主に肺癌・縦隔腫瘍)の手術および周術期管理の現状について講義を行い、周術期管理における周術期管理チームの役割についてお話します。また、本講座のまとめを行います。 | 7月18日 | 教授 奥田勝裕 名古屋市立大学大学院医学研究科 呼吸器・小児外科学 |